

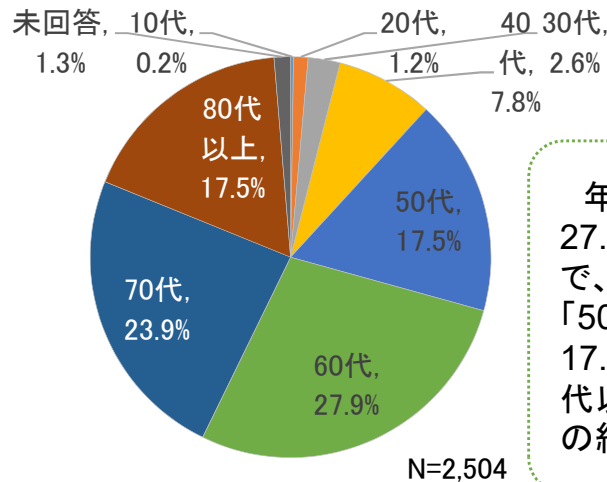
兵庫県ケアラー、ヤングケアラーの実態 に係る福祉機関調査について(概要)

兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関調査結果について(概要)①

○ 調査対象時点 令和3年4月1日

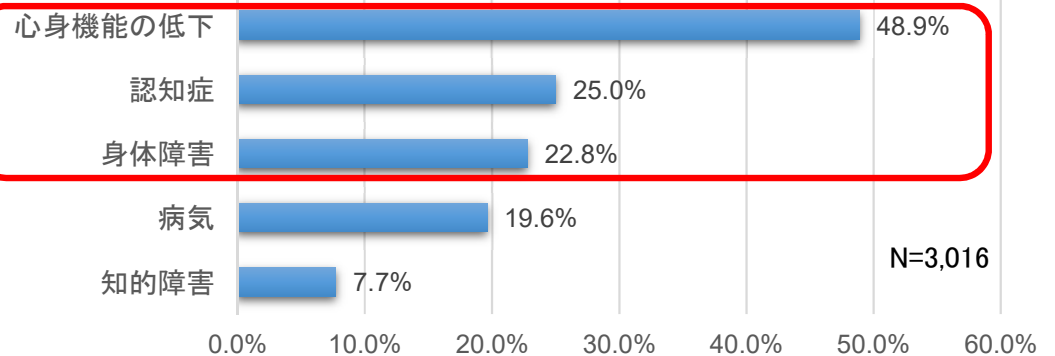
○ 回答数 2,504(地域包括支援センター267、介護支援専門員等42、障害者(児)相談支援事業所92、民生委員・児童委員2,103)

1 年齢・性別



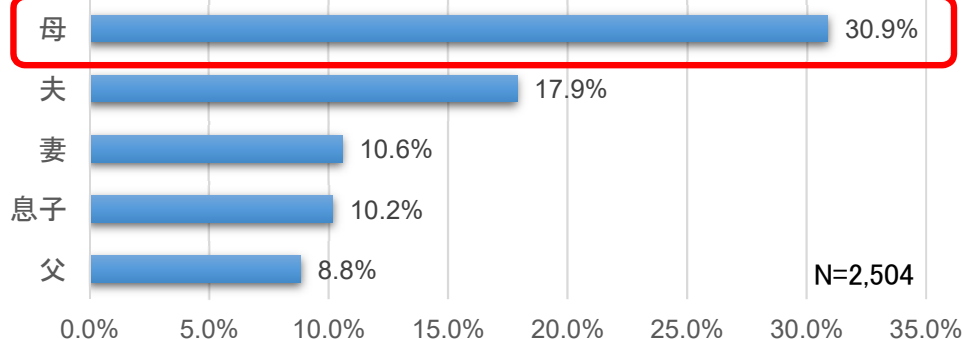
年齢は、「60代」が27.9%で最も多く、次いで、「70代」が23.9%、「50代」と「80代」が17.5%の順であり、60代以上がケアラー全体の約7割を占めている

3 ケアをしている相手の状況(複数回答:上位5つ)



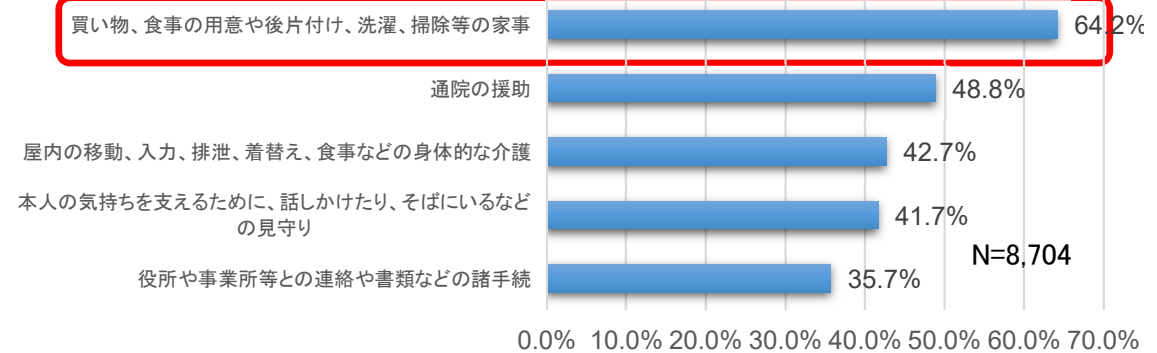
「心身機能の低下」が48.9%で最も多く、次いで、「認知症」が25.0%、「身体障害」が22.8%の順となっている。

2 ケアをしている相手(上位5つ)



ケアをしている相手として「母」が30.9%で最も多く、次いで、「夫」が17.9%、「妻」が10.8%となっている。

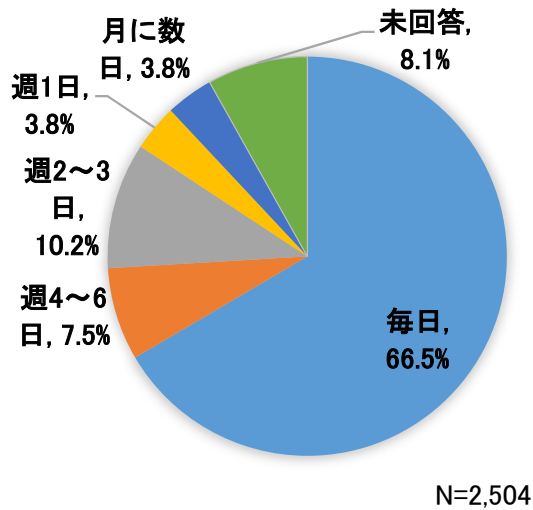
4 ケアの内容(複数回答:上位5つ)



「食事、洗濯、掃除等の家事」が64.2%で最も多く、次いで、「通院の援助」が48.8%、「屋内の移動、入浴、排泄等の身体的な介護」が42.7%の順となっている。

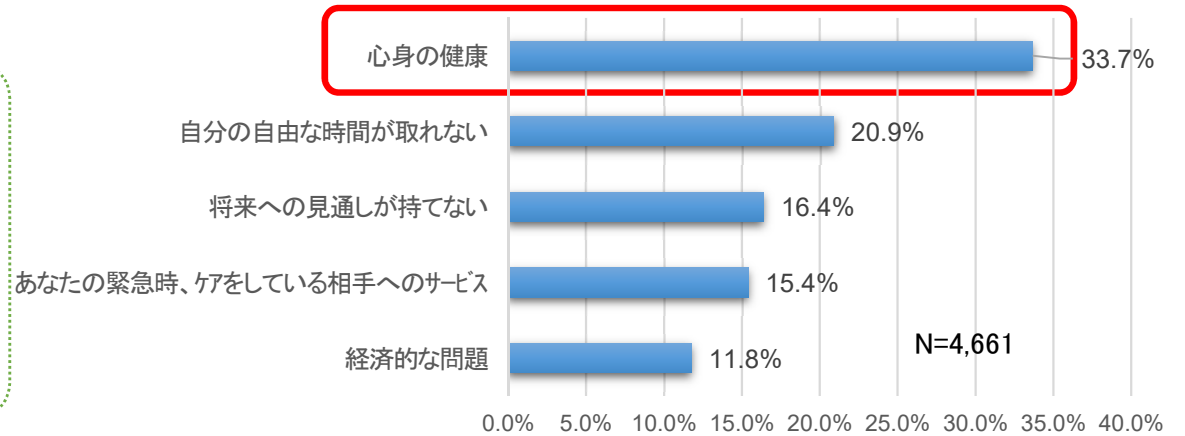
兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関調査結果について(概要)②

5 ケアの頻度



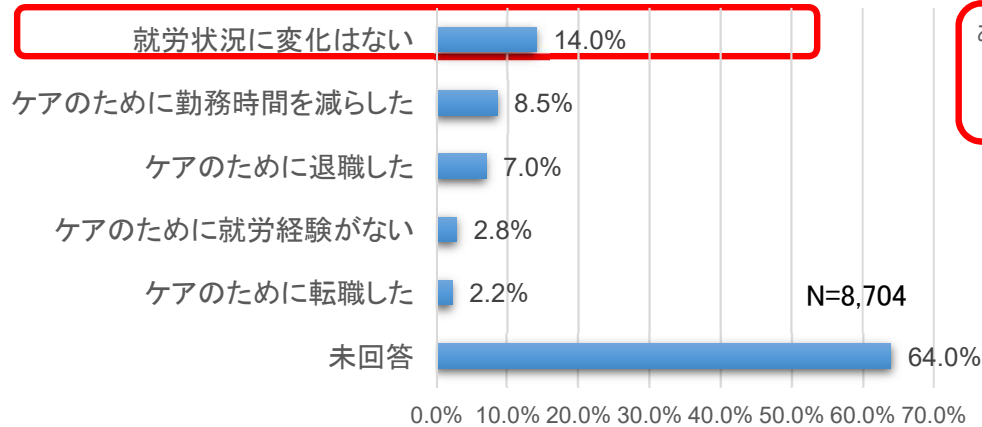
「毎日」が66.5%で最も多く、「週2~3日」が10.2%、「週4~6日」が7.5%の順であり毎日ケアをしているケアラーが7割近くとなっている。

7 ケアラーの悩み(複数回答:上位5つ)



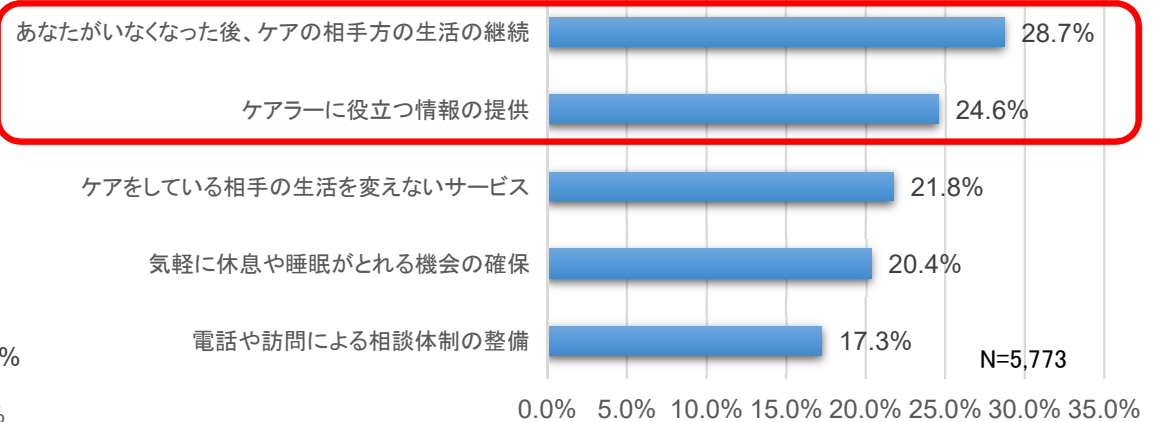
「心身の健康」が33.7%で最も多く、次いで、「自分の自由な時間が取れない」が20.9%、「将来の見通しが持てない」が16.4%の順となっており、ケアの状況により抱える悩みは多様なものとなっている。

6 ケアによる就労・就学への影響(主なもの)



「就労状況に変化はない」が14.0%で最も多く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」が8.5%、「ケアのため退職した」が7.0%の順となっている。

8 ケアラーに必要なと思われる支援について(複数回答:上位5つ)



「ケアの相手方の生活の継続」が28.7%で最も多く、次いで、「役立つ情報の提供」が24.6%、「災害時も含め、緊急時に生活を変えないサービス」21.8%の順となっており、情報の提供や、いざというときにケアの相手の生活を変えないための支援が求められている。

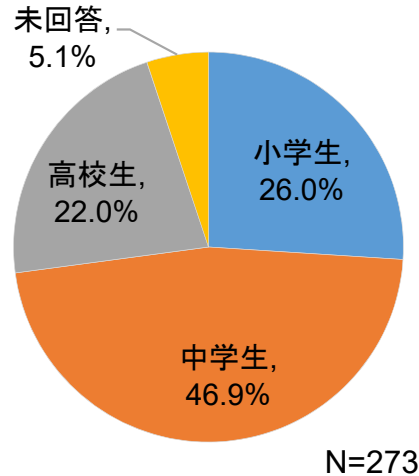
兵庫県ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査結果について(概要)①

○ 調査対象時点 令和3年4月1日

○ 回答数 273 要保護児童対策地域協議会:184

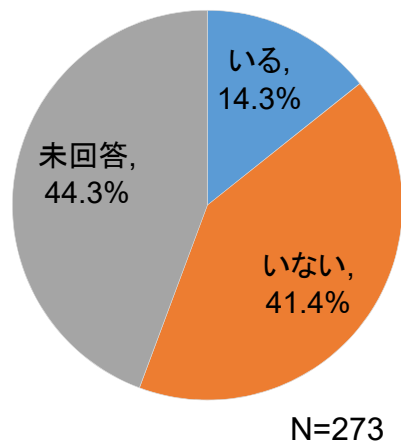
民生委員・児童委員、こども食堂、地域包括支援センター、介護支援専門員等、障害者(児)相談支援事業所の計89

1 就学の状況



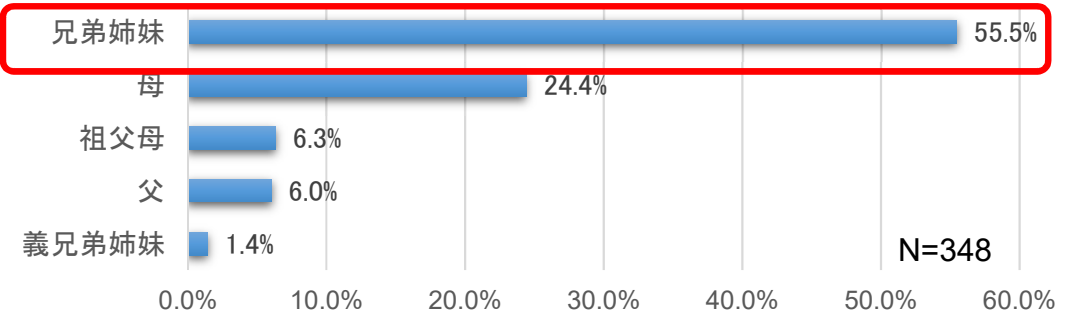
「ヤングケアラーの就学状況については、「小学生」26.0%、「中学生」46.9%、「高校生」22.0%であり、中学生のヤングケアラーが半数程度となっている。

2 ヤングケアラーの認識



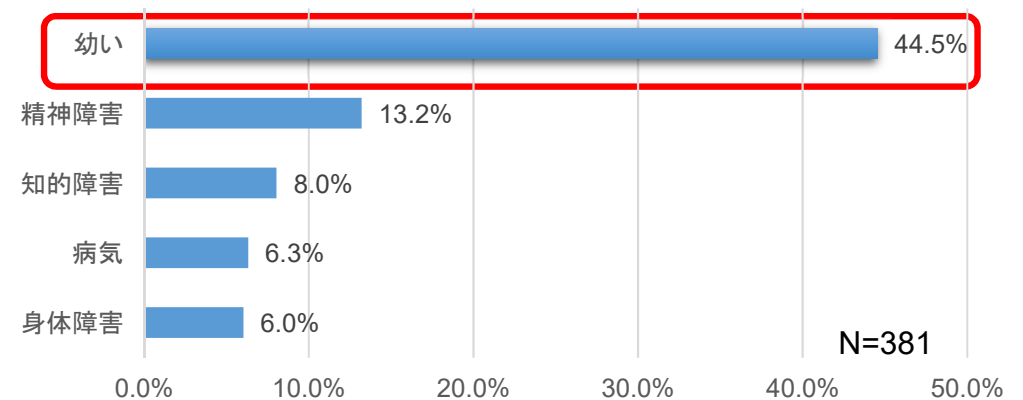
「ヤングケアラーである」との認識をもっている割合について、「いる」14.3%、「いない」41.4%であり、ヤングケアラーであると認識をもっていない割合は、4割を超えている

3 ケアをしている相手(上位5つ)



「兄弟姉妹」が55.5%で最も多く、次いで、「母」が24.4%、「祖父母」が6.3%の順であり、ケアの相手が兄弟姉妹とする回答が半数以上となっている。

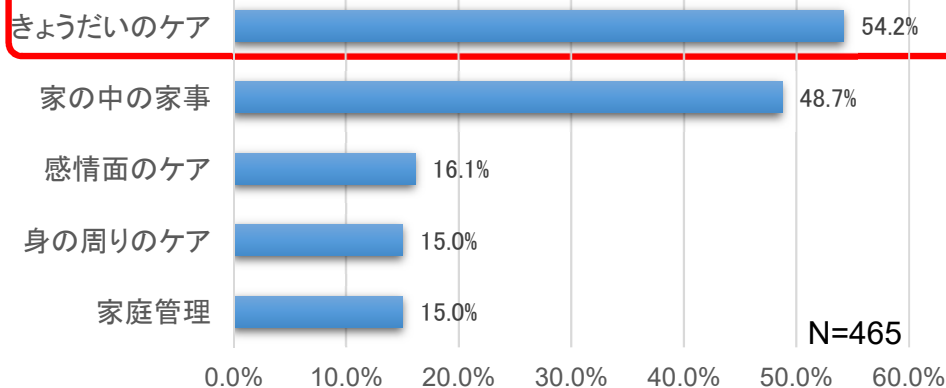
4 ケアをしている相手(上位5つ)



「幼い」が44.5%で最も多く、次いで、「精神障害」が13.2%、「知的障害」が8.0%の順となっている。

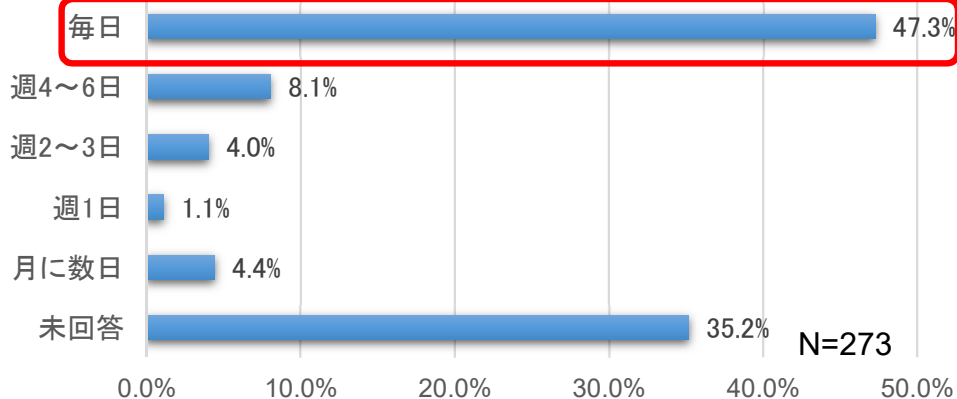
兵庫県ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査結果について(概要)②

5 ケアの内容(複数回答:上位5つ)



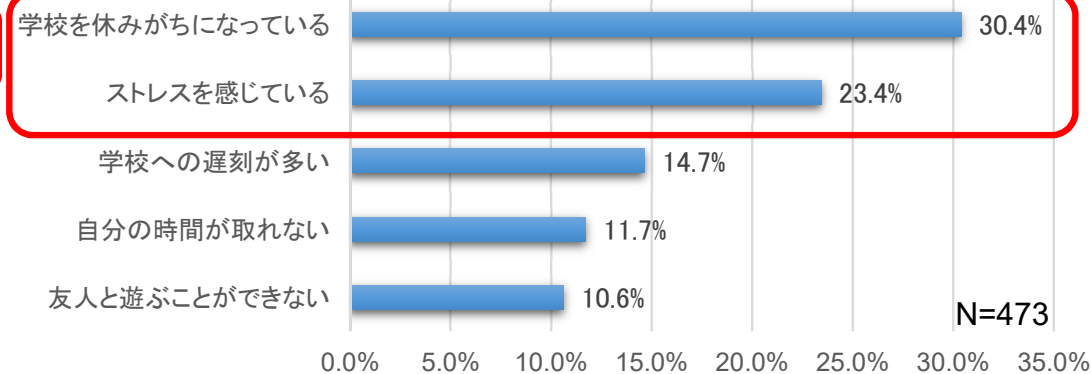
「きょうだいのケア」が54.2%で最も多く、次いで、「家の中の家事(食事の用意、後片付け、洗濯、掃除など)」が48.7%、「感情面のケア(その人のそばにいる、元気づける、話しかけるなど)」が16.1%の順となっている。

6 ケアの頻度



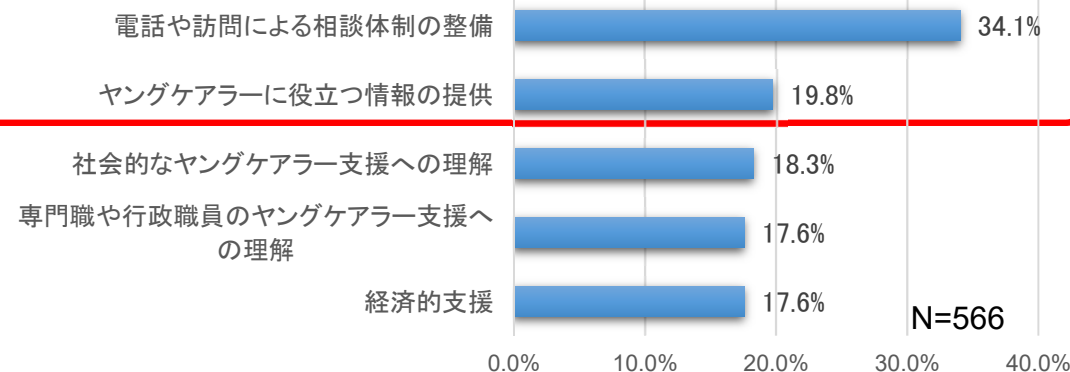
「毎日」が47.3%で最も多く、次いで、「週4~6日」が8.1%、「月に数日」が4.4%の順となっており、毎日ケアをしているヤングケアラーが半数近くとなっている。

7 生活への影響(複数回答:上位5つ)



「学校を休みがちになっている」が30.4%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が23.4%、「学校への遅刻が多い」が14.7%、「自分の時間がとれない」11.7%、「友人と遊ぶことができない」10.6%の順となっており、学校生活への影響や体調面、自由な時間が取れないといった影響が出ているヤングケアラーもいる。

8 ヤングケアラーに必要と思われる支援(複数回答:上位5つ)



「電話や訪問による相談体制の整備」が34.1%で最も多く、次いで、「ヤングケアラーに役立つ情報の提供」が19.8%、「社会的なヤングケアラー支援への理解」が18.3%、「専門職のヤングケアラー支援への理解」等が17.6%の順となっている。